

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	膵癌術後補助化学療法施行例の Tissue microarray を用いた Heat shock proteins の発現と生物学的特性の解析
	研究目的	Heat shock protein (HSP)というタンパク は熱などのストレス条件下に発現し、癌においては、癌細胞の生存に関係していると考えられています。HSP には様々な種類があり、種々の悪性腫瘍の予後や抗癌剤耐性との関連が報告されており、膵癌においては HSP27 や HSP70、HSP90 などが予後と関連すると報告されています。 HSP110 は HSP105 ファミリーの一つで胃癌においては高発現症例では 5FU や Cisplatin 等の抗癌剤が効きにくく、予後不良であったとの報告もされています。しかしながら現在 HSP110 と膵癌関連については詳細な検討はされていません。 今回 2005 年から 2016 年までに、当院で手術治療を受けた膵癌の患者さんの切除検体の解析によって HSP110 高発現症例で予後不良や抗癌剤耐性を示すことができれば、今後の予後予測因子や抗癌剤選択材料としての有用な指標(バイオマーカー)となる可能性が期待できると考えています。
	研究期間	西暦 2017 年 10 月 19 日 ~ 西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	山本直人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科 肝胆膵、 臨床研究所、 病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	